

刑事コロンボ

福田浩尚

ピーターフォークが六月二三日に八三才で亡くなった。「刑事コロンボ」の映画やテレビドラマで主役のロス警部のコロンボを演じた役者である。

この「刑事コロンボ」というドラマは六八作もシリーズで制作、放送されたものと聞くがその数の多さに驚く。私も、時間がないときはビデオにとったりしてほとんど全部見たつもりだが、どれを見たのかすっかり忘れてしまいました。半分くらい見ながらこれは前にみたやつだぞと気づくしまつである。

ストーリーの展開はだいたい決まっている。冒頭に殺人事件が起きる。見る方にとっては最初から犯人が分かっている。痴情や財産にかかわるものが多くほとんど金持ちにからむケースが多い、ロスアンジェリスの美しい豪邸と景色が背景になって我々貧しいものの眼を楽しませてくれる。さて、殺人事件ということでは、ロス市警殺人課のわれらがコロンボ警部の登場である。コロンボは、犯人は分かっているぞとばかり、はじめから目星つけた相手にあたる。我々、見てる方は犯人がすでに分かっているので面

食らうことはない。犯人探しのドラマではない。あくまでも、コロンボがどうやって犯人を追い詰め逮捕するかというのが焦点である。だから、日本人から見ると、多少危険なこともやる。「おとり捜査」というのはアメリカで一般的に行われていることらしいが、我々から見ると、ちょっと理解できないし、実際には危険な要素がある。しかし、犯人がすでに確信されているので、あまり不自然な気がしない。

さて、ロスアンジェルスの大豪邸にコロンボが現れる。殺人現場である。颯爽というわけにはいかない。日本では車検がとられないであろうようなオンボロのポンコツ車を運転して登場する。ずかずかと現場に現れたコロンボは、風采のあがらないイタリ²ア系の男であたり一面に葉巻の灰をまき散らし颯爽をかう。

ピーターフオーク演ずるところの魅力は、この風采のあがらないことにある。先ず、コロンボ自身によれば、外車と称するイタリア製のオンボロ車にのり、ヨレヨレのコートを着て捜査にあたる。脚もがに股で歩き方も少し猫背に見える。頭はもじゃもじゃ、冴えない男でどうみても腕利きとは見えない。犯人はこれはたいした刑事ではないとたかをくくる。ところが、それがすばらしい冴えをみせる。質問が犯人にとっては的をついてくるのでこれはただものではないと考え始める。眼は片方が義眼なそうであるが、輝いていて犯人にとって薄気味悪い。ドラマの始めのほうでは、

決して相手を犯人ではないと思わせて安心させる。ところが、しつこくなんどもなんども足を運ばれて事情聴取のようなものをうけると犯人の方はだんだん不安になってくる。ようやく、ひとわたり質問が終わり退場する。犯人の方はほっと一息つくこうとすると、「あ、思い出しました。もうひとつ伺いたいんですが・・・」と言って戻ってくる。不意をつかれてビックリ仰天の場面である。このようなあたりは、このドラマの製作者は実に犯人の心理をよんでいる、うまく作っていると言うべきであろう。

コロンボの魅力は、更にその台詞の面白さにある。「うちのかみさんがね」というセリフが評判になった。愛妻家でちよつと頭が上がらない雰囲気を読み取れる。ところで、このかみさんはドラマに一度も登場していない。後半の作品の中にいかにもかみさんが出てきそうな思わせぶりの題名があったので(ちよつと題名は忘れたが・・・)期待して待っていたのだがとうとう登場せずじまいであった。死体を「ホトケ」さんと呼ぶのも独特だ。仏教の国でもないのだから、このセリフもおかしいのだが、あんまり奇異な印象は受けない。ひとつにはこの言葉になにかユーモアを感じるからであろう。オリジナルは英語だから日本語訳が気が利いているのであろう。

海のこちら側での長いシリーズものと言えば「寅さん」があげ

られるが、両者には長く続けられる理由とも思える共通点がある。冴えない服装、気の利いた台詞もあるが、私が最も大切だと思うことは、両方とも日本語でいえば人情がありしかも独特なペーソスがあることにあると思う。「刑事コロンボ」の中には、たとえば夫の勝手な行動や不倫で殺人を犯したケースがある。殺人を追求するコロンボの眼は厳しいが、一旦犯人が罪を認め逮捕に至ったときのコロンボはがらりとやさしく変わる。殺人に至った事情を述べ、反省している者に対し、コロンボは言う。「分かりますよ、どんなお気持ちだったかお察しします・・・」これは罪を憎んで人を憎まずの海外版だろう。私はこのようなドラマの作り方も好きである。

しかし、やはり、後半の作品のいくつかはコロンボも歳をとったせいか、マンネリになってきていた。ピーターフォークはアルツハイマー病にかかっていたという。もっと生きていて欲しいことは欲しかったが、そろそろ引きぎわ時だったのであるまいか。終わり

2011年6月